

前田和子基金「重症児等とその家族に対する支援活動応援助成」 第5回 <助成決定にあたって>

2026年6月2日
社会福祉法人中央共同募金会

1. 応募状況

- (1) 応募総数 41件
- (2) 応募総額 8,649万円
- (3) 応募団体の内訳
 - ①団体の所在地域…宮城県・東京都・愛知県5件など、全国の22都道府県から応募が寄せられました。
 - ②法人種別…NPO法人（認定NPO法人を含む）が最も多く25件あり、法人格のない団体も6団体ありました。

2. 助成決定状況

- (1) 採用件数 23件
- (2) 採用案件の助成総額 3,578万円

財源が限られていることから、応募要項に照らし合わせて審査を行い、必要性や資金的な緊急性が高い活動、また効果的な支援につながる活動であると応募書から判断されるものを優先して決定しました。

3. 助成決定にあたって ～審査委員長コメント～

医療的ケア児の健やかな成長とその家族の離職防止を目的とした「医療的ケア児支援法」の施行から、5年目を迎えました。これまでに、支援や相談の拠点となる「医療的ケア児支援センター」の設置が全国すべての都道府県が進むなど、医療的ケア児の地域生活を支える制度整備が進められてきました。

一方で、学校や通所サービス、自宅での生活を支える高度な専門知識と経験を持つ看護師等の支援人材の不足や、家族のレスパイト（休息）のための一時預かりや緊急時の受け入れ先の不足など、依然として子どもと家族の地域生活を支えるサービス提供体制には課題も残されています。

本助成は、これまでの実施に引き続き、こうした子どもや家族を支援する活動を、資金面から応援することを目的として実施いたしました。

今回の第5回助成では、全国から41件の応募が寄せられ、審査委員会による慎重な審査の結果、23件の活動が採択されました。いずれの団体も、現場の実情に即した創意ある取り組みを展開しており、地域の支援体制の充実に大きく寄与することが期待されます。

また、今回の応募では、①医療的ケアが必要な子どもがいることできょうだいにがまんを強いられるようなことはさせたくない、②医療的ケアが必要な子が家族にいても、その子と一緒に家族旅行がしたい、などの声が各地から同様に寄せられました。

「家族として一緒に旅行を楽しむ」「きょうだいそれぞれの存在を大事にし、それぞれの成長を喜び合う」など、「当たり前前の家族の暮らし」を望んでいることに気づかされました。「医療的ケア児への特別の支援」も重要ですが、「家族として当たり前前の地域の暮らし」へとニーズが広がっており、このことこそ重要であると実感させられました。

<主な採択事業>

○通所が困難な子どものデイサービスや生活介護への送迎、外出機会の創出、家族の負担軽減のための福祉車両の導入

○子ども家族もともに楽しめる演奏会やマルシェ等の開催、県外のレジャー施設への外出支援、家族単位での宿泊訓練など、多様な体験の提供

○医療的ケア児の家族のつながりづくりのアウトリーチ型居場所や地域交流会、各種イベントを通じた親同士の交流などのピアサポート活動

その他に、古民家を改修した遠隔避難所としての整備や、災害時の福祉避難所の機能強化のために蓄電池や医療器具を搭載した福祉車両の配備など、災害・緊急時に備えた体制構築の取組みや、専門人材の確保・育成を目的とした在宅生活や外出支援を担う看護職の育成事業、病児家族の滞在施設における「きょうだい児保育」の質向上と支援体制構築のための取組みが採択となりました。

第4回助成からの応募の傾向として、第5回助成でも、車両や設備導入といったハード面の支援から、子どもたちとその家族を“地域で支える取組み”といったソフト面の支援へと、取り組みの幅がますます広がってきました。

本助成では今後、重症児等とその家族が「地域で当たり前前に暮らせる状態」を目指す活動をより一層応援していきたいと考えています。そのためには、地域との関わりを持ち、地域住民とのふれあいを通じて、重症児や医療的ケア児等とその家族を取り巻く状況への理解や認知を広げていく視点が重要になります。関係機関と連携・協働し、地域全体で重症児等とその家族が孤立しない地域づくりを視野に入れた活動が広がっていくことを期待しております。

最後に、本助成を通じて得られた成果が、各団体の活動の発展につながり、子どもとそ
のご家族が安心して暮らせる地域社会の実現の一助となることを心より願っております。

なお、当助成プログラムは、今回より、中央共同募金会に遺贈寄付をお寄せいただいた
故 前田和子様のご遺志を踏まえ、「前田和子基金・重症児等とその家族に対する支援活動
応援助成」として実施するものです。故 前田和子様にあらためまして感謝の念を申しあ
げます。

「重症児等とその家族に対する支援活動応援助成」審査委員会
審査委員長 石 渡 和 実